

# 猿新聞

編集・発行  
山村 準  
tel:0595-63-1725  
Email  
jyun.y@asint.jp

## 24年度MD育成・訓練事業 予算削られる



宇陀・名張地域鳥獣害防止広域対策協議会は、平成21年度から3年間で、21頭のMDを認定して現在各地域で活躍をしています。

しかし、今年度から国の事業からモンキードッグの育成訓練プログラムが事業対象外となりました。各地域から、その効果を認められ、これから本格的スタートというおり「水をさされた」ような気持ちです。

宇陀・名張地域鳥獣害防止広域対策協議会（以下、協議会と表記）では、平成21年MDを導入以来4年目を迎えますが、地域の理解も得られ順調に定着してきました。二県を跨いでの追い払いは全国的にも珍しく、先駆的だともいわれています。

MDは万能薬ではありません。地域の獣害対策と連携して、複合的に効果が発揮できるのです。局的ですが、地域の対策と相まって大きな効果が出ている所もあります。

MDCでは、点的（局所的）効果から面的（広範囲）な効果に広げるために多頭数での追い払い訓練などを実施し、その方法を模索しています。

名張B群の遊動域は宇陀・名張両市をまたぎ広く、現在のMD頭数では全域をフォローするのは難しく、MDCでは4期・5期と引き続き育成訓練の要請をしているところです。

そんな矢先、「今年度よりMDの育成訓練プログラムの育成対象外」と。24年以降は、MD訓練・育成のための「人材育成」に方向転換。協議会では、「早急に訓練技術取得のための人材育成に取り組む」と言っています。

協議会が、獣害の起死回生への手がかりにとMD事業に取り組み始め僅か3年。結果を見ずに方向転換とは、行政の施策に大きな疑問を感じます。

## 平成24年度 獣害対策犬育成事業

平成21年度からモンキードッグの育成事業を始め3年が経過しました。その間21頭の犬が訓練を終えて、モンキードッグとして認定することができました。また、21頭の内14頭を宇陀市でも名張市でも活動できる広域認定犬として昨年度に認定を行ったところです。

最近は複数頭による追払いの取組やマスメディアにも取り上げられ、今後の活動に期待しているところです。

今年度においては、国の事業からモンキードッグの育成訓練プログラムが事業対象外となったことで、警察犬訓練士に依頼しての育成は行うことが出来なくなりました。

しかし、協議会としては、モンキードッグの取組に

より獣害が減少した地域があり、他の獣害対策と組み合わせる手法などで、さらに被害を軽減することが出来るため、モンキードッグ育成の必要性を感じています。

そのため、今後継続してモンキードッグ育成を行うには、飼い主にモンキードッグに必要な訓練を教え広めることが出来る人材が必要となります。

協議会では、人材育成のため訓練技術の習得や向上に取り組むと共に、複数頭での追い払い手法の確立などをモンキードッグ倶楽部と連携して取り組んでいきます。

\*MDC会報より転載。

宇陀・名張地域鳥獣害広域対策協議会事務局長  
堤 正明

## 「サルよりシカの方がかなわん！」

名張地方は鈴鹿山系の麓に存在し、山と接する中山間地の圃場では、シカ、イノシシ、サルなどの野生動物による被害が日常的にあり、農業生産の大きな足かせとなっています。シカ被害は、現在では平野部や住宅地にも拡大し、シカによる人獣共通感染症も心配されます。

また、山林被害も全国的に急増し深刻な問題となっています。「子鹿のバンビ」とか「つぶらな瞳」とか言ってる場合じゃないんです。早急に効果的な対策を講じていく必要があります。

近頃、「サルもかなわんけど、シカの方がかなわん！」。こんな話をよく耳にします。

被害のなかでも、シカは最も大きな被害を出す動物で、サル・イノシシの比ではあります。

多くの種類の植物を食べ、あらゆる農作物を食害します。さらに、増えすぎて個体密度が高くなると、エリア内の自分の背の届く高さ以下の植物は全て食べ尽くしてしまい、それでも食べる物が無くなると、落ち葉すら食べてしまうので表土がむき出しになり保水力が低下し、森林の持つ機能が失われます。

## シカ被害対策

### 個体調整

天敵であるオオカミが絶滅した現代シカは増える一方です。生態系のバランス保持のためにも個体調整が必要です。昔は狩猟による個体数の調整も自然に行われていましたが、狩猟は免許制となり、猟期や

### 環境整備

近年、中山間地域の過疎化、耕作放棄地の増加などで、本来の生息域と人里との境界線は狭まり、野生動物に潜みやすい環境を与えています。

田畑の周りの雑木林、竹藪の伐採整備、電柵による侵入防止、罠による捕獲などと合わせて、耕作放棄地の活用を図り環境整備を推進していく必要があります。餌となる「ヒコバエ」や冬季の畦畔の雑草をなくすことも重要なことです。



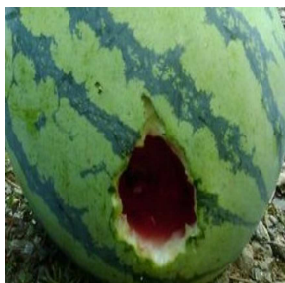
## シカ食害（矢川）

写真右側サツマイモの葉が一晩で丸坊主。写真左側隣接の畑。大豆・小豆被害。先っぽが食べられてなくなっています。今年のサツマイモ、大豆・小豆の収穫は見込めません。

## アライグマ 4頭捕獲



矢川の田中さん（写真）4頭のアライグマを捕獲。田中家で天井裏の異音に気づいたのは6月頃。「ネズミにしてはチョット変やな」と位に思っていたそうです。写真Ⅱ田中さんの畑で。



天井裏などに棲みつき、糞尿を排泄するなど生活環境被害や衛生面でも問題になっています。捕獲に対しては、食痕・足跡など被害状況をよく観察して、何から被害を受けているのかを特定し、対策を立てることが大事です。『イノシシ農でネズミを獲る』というように、愚行をしないように。アライグマ外来種です。人間の生活圏を積極的に利用して定着。形態頭胴長は41〜60cm、体重は4〜10kg。毛色は灰色〜明るい赤褐色。目の周囲にはっきりした黒いマスク模様があります。尾に5〜10本の黒い輪があります。★アライグマ回虫の幼虫移行症という、人畜共通感染症を媒介することもあります。

